

成人移行期支援の目標指標に関する整理表

令和7年10月20日
評価委員会事務局

	メリット	デメリット
実人数	<p>【県の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標値は結果に対して設定することが望ましく、本来は成人移行の実績に対して設定したいところであり、新規・継続・移行完了の要素を含む「実人数」は指標として適切 ○ これまで指標として設定しており、違和感はない。 	<p>【県の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本来的には移行完了の実績を指標として設定すべきであり、新規件数に左右される「実人数」は望ましくない。 <p>【こども病院の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時期によってバラツキが大きく、指標としてふさわしくない。 ○ 「実人数」を指標とすることで、こども病院の成人移行期支援外来の患者を、外部から受け入れるよう要請しているように誤解される可能性がある。
延べ人数	<p>【県の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者によって移行に向けた困難さが異なる中、移行に向けたこども病院の努力を評価しやすい。 <p>【こども病院の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 成人移行期外来は、対象となる院内患者に医師だけではなく多職種で関りながら、家族にその必要性を理解いただき、時間をかけて準備していく場であり、その過程を示す指標とすべき。 ○ 年齢(学年)や環境、病態が異なる患者への支援であり、内容、一人当たりの回数ともに様々である。 ○ 移行期支援は、心身の成長に合わせた自立に向けたサポートであり、その活動を評価する指標として適切 	<p>【県の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本来的には移行完了の実績を指標として設定すべきであり、「延べ人数」では測ることができない。